

新理事会は、公益財団法人として
憲法9条や憲法25条をしっかりと守り、
人権としての地域医療と介護の充実の為に
全力を尽くす決意です



2014年期中第2回理事会（坂総合クリニック8階会議室）

厚生協会だより

2014年7月21日
第 326 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：横山公樹



専務理事 横山 公樹

6月21日に開催した評議員会において2014年期の理事29名及び監事3名が選任され、同日の理事会で代表理事（理事長）と業務執行理事（常務会）が選出され、新たな法人執行体制がスタートしました。

いま、安倍暴走内閣によって集団的自衛権や集団安全保障の武力行使を容認する解釈改憲の動きが強まり、医療と介護の仕組みを根底から改悪する医療介護総合確保法が成立するなど、国民の命や暮らしに関わる平和と安全・安心の基本が大きく揺らいでいます。

私たち役員一同は、公益財団法人として憲法9条や憲法25条をしっかりと守り、人権としての地域医療と介護の充実の為に全力を尽くす決意です。

○理事長 今田 隆一（昇任）
○副理事長 小熊 信（昇任）
○副理事長 内藤 孝（昇任）
○専務理事 山田 裕

○専務理事 横山 公樹（昇任）
○副専務 佐藤 孝一（昇任）
○常務理事 平賀 秀法

○常務理事 大槻 透（昇任）
○常務理事 大山 泰人（昇任）
○常務理事 熊谷 正子

○理事 湯田 正孝（昇任）
○理事 阿南 陽二
○理事 伊勢 淳子（昇任）
○理事 近江 寿

○理事 小幡 篤
○理事 神倉 功
○理事 河内 満彦

○理事 呉 賢一
○理事 小松 英則
○理事 金萬 文雄（昇任）

○理事 佐藤 直志
○理事 佐藤 裕美（昇任）
○理事 富山 陽介

○理事 長谷部 誠（昇任）
○理事 花木かよ子（昇任）
○理事 日比野恵子（昇任）

○理事 前谷津温子
○理事 水尻 強志
○理事 山田 忠行

○理事 海和 隆樹
○理事 佐藤 啓二（昇任）
○理事 千葉 直人

○監事

2014年期、 たたかいと対応の 真価が問われる

2014年期は、安倍暴走内閣による消費税大増税、原発推進、集団的自衛権行使容認、秘密保護法、等々の国民のいのちと生活との矛盾がいっそう拡大する激変・激突の情勢の下で、事業活動の前進に取り組むことになります。

特にこの期間には、社会保障制度改革プログラム法が規定するテンポで、地域医療と介護システムが大きく変わります。この期には、医療法と介護保険法が改定され、更に2014年医科診療報酬改定と2015年介護報酬改定、2016年医科診療報酬改定があり、その後の2018年同時改定につなぐ厚労省の強力な経済誘導が準備されています。2014年期は、厚労省が描く「2025年あるべき姿」に向かう大きな変革期であると同時に、国民生活との矛盾が露わになるたたかいの時期です。

このような時期を民医連に結集して、全職員と共同組織、

地域のみなさんと協働し、平和と民主主義の実現を求め、いのちと健康を守る地域力を大きくしなければなりません。

この取り組みの中で、各病院・事業所が営んできた医療介護活動をしつかり発展させなければなりません。これ自体が、人権としての地域医療と介護を守るたたかいです。

同時に、医療介護総合確保法や改定が準備されている医療法と介護保険法の下で、各病院・事業所の地域の中での役割を改めて見直し、自己変革しなければこれからの前進をつくることは出来ません。病院の病棟機能、外来主治医機能、在宅診療支援、地域包括ケアを支える新たな事業展開など事業活動の基本の枠組みを再構築し、新たな展望につなぐ課題です。

更に、事業経営の大きな変革期を支え推進するためには、これまで以上に法人としての組織的で旺盛な人材育成が必要です。職場でのOJT強化と新たな教育研修制度が創設できるよう取り組みます。

公益財団法人宮城厚生協合理事長新任のごあいさつ



情勢を大きく切り開ける力を 作り上げたい

理事長 今田 隆一

このたび公益財団法人宮城厚生協合理事長に新任された今田隆一です。前任の水戸部秀利医師に代わっての大役に身の引き締まる思いです。新たに選出された理事、互選された常務会のメンバーと力を合わせて難局に処する決意であります。職員一同のご支持とご支援をお願いいたします。

地域住民と患者・利用者のため、 包括ケア確立に総力を

さて「戦争できる国づくり」を目指して突っ走る安倍内閣は、一方で新自由主義的政策を押し進め、社会保障のさらなる圧縮と削減を図ろうとしています。その現れが先の国会で採決された医療・介護の一体的改悪法です。私たちはこれに反対し、真の意味で地域住民と患者・利用者のためになる包括ケアの確立のために総力を挙げて進まなければなりません。

また、こうした国の路線は法人の経営問題にも深刻な影響を与えています。2014年4月の診療報酬改定は消費税増税分がまるごと赤字へと転嫁された、大幅なマイナス改定でした。

安倍暴走内閣にストップをかけることは地域住民、患者・利用者の利益に合うことのみならず、法人の未来にとっても欠かすことのできない最優先課題です。

法人のマネジメントレベルの向上、人事育成政策の前進、そして中・長期計画作りにも挑戦する中で、情勢を大きく切り開ける力を作り上げたいと思っています。

内外へ「共同と協同」のエールを送りながら、その中核にわが法人があり続けるための決意を最後に表明し、ごあいさついたします。



新理事会の三つの役割

2014年期は、民医連に結集したたかいたのなかで、厚生協会のあらゆる可能性を伸ばし、新たな事業の土台を準備する時期になります。その役割は以下の3点に要約されます。

- ①厚生協会の存在意義（ミッション）を全職員・共同組織と改めて確認しながら、中長期経営戦略を立案し実践すること。
- ②民医連運動と経営活動の担い手を広く育成しながら、後継者養成及び人材育成計画を立案し実践すること。
- ③全職員参加を進める経営マネジメントの質の強化及び財務と損益構造の健全化を進めること。

次世代につながる理事会に

新理事会は、激動期の法人運営が安定的に継続できるように常務会体制を強化していきます。同時に、女性理事の比率を系統的に高めながら、事業所管理体制においても事務

長や副事務長の大幅な異動をおこない、次世代の幹部登用を進めています。

次世代を含めた役員相互が役割や専門性を発揮しながら、組織的な意思決定と業務執行を通して育ちあう理事会となるよう心がけます。

理事会は全日本民医連の方針や全国の経験を積極的に学びながら、全国の非営利組織や一般企業のような組織運営や経営管理の理論と経験を活かし、県内で最も大規模な公益財団法人として社会的責任を果たします。

「坂総合病院100周年」「厚生協会64周年」のいま、民医連・厚生協会を支えてきた多くの先輩たちが、様々な困難を乗り越え今日を築き上げたご努力を受け継ぎ、今後どんな暴風が吹き荒れようと、全職員と共同組織のみなさんと、こころ一つに、新たな前進を切り開く決意であります。

これからもご指導ご援助を心からお願い致します。

「13世代事務研修報告会」開催

目一杯学んだ研修を活かし、新たなスタートに

坂総合クリニック診療サービス課 堀口 茜

6月20日（金）の夜、坂病院セミナー室において、厚生協会各事業所から50名以上が参加し、2013年度入職の事務職員4名（成田和希、郷家淳、菅原優香、小笠原有加）の「事務研修報告会」が開催されました。

【第1部】「診療サービス業務に関する1年間の到達について」

入職してから1年間で4人が学んだ共通業務について報告されました。窓口業務や予

約センター、会計入力などに関し、それぞれ5段階で自己評価をしました。

患者様の対応はじめ、窓口での基本業務は習得できたという一方、各外来や他職種との連携が課題として挙げられました。それぞれが自身の課題と目標を明確にできた発表でした。

【第2部】「個別研修報告」

組織課や医局事務での研修報告はじめ、それぞれの個人担当業務や委員会、そして、民医連ならではの社会保障活動への取り組みなどが報告されました。

患者様や地域の方々との関わりを通して、病院として、事務員としての役割を考え、それを実行するために努力してきた様子が伝わってきました。

1年間という期間の中で目一杯研修・活動をしてきて大変だったと思いますが、たく

さんの事を学び、考えることができたように感じました。

報告を聞いて

新鮮な気持ちに、お互い成長できるよう努力したい。私自身も新人の頃を思い出し、新鮮な気持ちになることができました。今後はさらにお互いに成長していけるよう努力していきたいと思っています。

今回発表した4人は、報告を終えてほっとしているところだと思いますが、この研修報告会がゴールとなるのではなく、新しいスタートという意識を持って仕事に励んでほしいと思います。



左から成田さん、菅原さん、小笠原さん、郷家さん



報告会の様子

坂総合病院開院100周年企画

『【塩竈フォーラム】社会保障の100年』

『【坂総合病院100周年記念式典・祝宴】坂総合病院の100年』

100年の歴史を、地域の方々とともに歩む



講演会の様子

6月28日(土)、塩釜市内のホテルを会場に9時半から18時半まで、全体で200名以上が参加し「坂総合病院開院100周年企画」が開催されました。

◆「塩竈フォーラム」

社会保障の100年

9時半からお昼をはさみ15時まで、3名の方に1時間半ずつ講演していただきました。

①テーマ…「大震災・原発災害被災地から見えてきた日本の地域医療の問題点」

講師…井上 博夫氏
(岩手大学教授 財政学)



井上博夫教授

被災地や復興過程の状況は、ただ単に自然災害がもたらした結果ではなく、むしろ元からあつた諸問題が災害の中で顕在化したと言えるのではという視点から、お話されました。

②テーマ…「いま、コミュニティを考える…大熊町から」

講師…吉原 直樹氏
(大妻女子大学教授 社会学)
東北大学名誉教授 社会学)



吉原直樹教授

冒頭、コミュニティへの期待が広がっていると述べ、1.「震災復興から見えてきたもの」2. 原発被災のなかの地域住民組織、という二つの内

容を中心にお話されました。

③テーマ…「新たな福祉国家を展望する」住み続ける権利と人権としての社会保障・生活保護」

講師…井上 英夫氏
(金沢大学名誉教授 社会保障法)



井上英夫教授

格差・貧困・不平等の拡大・深化、そして東日本大震災・原発事故と二つの苦難が襲っており、日本の国のあり方が問われていると述べ、人権として社会保障発展の主たる原動力は、権利のための運動であり、歴史観と人類的・地球的視点の共有こそ、最も必要と強調されました。

◆「坂総合病院100周年記念式典・祝宴」

坂総合病院の100年

第一部 記念式典

15時半開催。はじめに主催者を代表して、内藤孝院長が

あいさつし、地域の多くの方々に支えられてこそ今日の坂病院が存在できていることへの謝辞はじめ、今後ともかかりやすい病院作りに努めていく決意など述べられました。



あいさつする内藤院長

次に、「百年史編纂」にあたって、編纂委員会責任者の村口至先生(坂病院名誉院長)から坂病院100年を概括し、その時々々の社会情勢も交え特徴など説明されました。



説明する村口先生

ご来賓の方4名(佐藤英治塩釜市議会議員、田所慶一独立行政法人国立病院機構仙台医療センター院長、太田美季全日本民医連事務局次長、斉藤規夫坂病院友の会会長)から祝辞をいただきました。

第二部 祝宴

今田隆一先生（宮城厚生協会理事長）が祝宴の辞を述べました。富山陽介先生（坂病



祝宴の辞を述べる
今田理事長



富山副院長が乾杯
のご発声

院副院長・塩釜医師会理事の乾杯ご発声でしばし歓談となりました。その後、祝電紹介、記念誌編集委員の紹介、スライド上映など続きました。



写真で見る坂病院百年史スライド上映

各テーブルでは、久しぶりの再会で、話は尽きず大変盛り上がりしました。



記念誌編集委員の紹介

さらに7名の方、斉藤禎量先生（元宮城厚生協会理事長）、佐藤道子さん（元坂病院看護部長）＋退職者の会、八田英之さん（元坂病院事務局長）、塗イチさん（元坂病院看護師）、舩田和比古先生（元全日本民医連副会長）、歌川睦子さん（労組坂分会長）、天下みゆきさん（元坂病院事務局長）から懐かしい思い出などスピーチや歌声がありました。



八田英之さん



斉藤禎量先生



塗さんを囲んで、左から斉藤先生、横山先生、吉田先生



佐藤道子さんと退職者の会のみなさん



最後は1本締め

閉会のあいさつは、高津政臣先生（坂病院副院長）。『坂病院の良い伝統を次世代にきちんと引き継いでいきます。』と決意を述べました。
そして最後に、佐藤孝一坂病院事務局長による「1本締め」でお開きとなりました。



閉会のあいさつをする高津副院長

昨年11月誕生した仔犬たち



北海道犬に 魅せられて

協会本部 安全・相談室 佐々木辰也

北海道犬がわが家にやってきた

星空の下、犬たちの激しい息遣いが伝わってくる。毎日のバイク運動が日課だ。一度に3頭の犬たちが勢いよく駆け出す。目指すは北上川の堤防に沿った道、途中の山道を5～6km走りきる。毎夜、これを2往復、6頭の犬たちが繰り返す(1頭は高齢のため留守番)。



朋幸姫・岩手弥生荘

某携帯電話のCMでおなじみのお父さん犬、あれが北海道犬(通称アイヌ犬)である。古来、先住民族と同居していた犬たちが、朝鮮半島から移住してきた民族により極寒の地蝦夷(えぞ=北海道)に追いやられたのが、アイヌ民族と北海道犬である。北海道犬はアイヌ人の狩猟犬として、ヒグマやエゾシカ猟に欠くべからざる伴侶として活躍した。1902年(明治35年)1月日本陸軍第8師団が青森市街から八



食事前の犬たち

甲田山に向かう雪中行軍の途中で、最も多くの死傷者を出した世界最大級の山岳遭難事故の捜索活動に地元マタギが難儀する中、北海道からアイヌ人と北海道犬が招聘され大活躍した話はあまり知られていない。

27年前、その北海道犬がわが家にやってきた。以来、良犬作出をめざし子犬の繁殖と慧眼を磨くため展覧会(犬の品評会)に出展してきた。子どもたちが小さい時は毎年一週間5年間かけて本場北海道の犬視察旅行も行なった。

初出場で初の牝組全犬優勝(全国優勝)

自分で繁殖した犬で、支部展でいいから優勝するのが長年の夢だった。その夢が昨年秋、青森支部展と東北支部展で「朋幸姫・岩手弥生荘(6歳牝)」が達成してくれた。その勢いをかって今年4月、山形県で開催された第97回北海道犬協会本部展覧会に初出場で初の牝組全犬優勝(全国優勝)の夢をかなえることができた。

今までに40頭以上の犬を飼育し多くの子犬を繁殖してきたが、自分の犬舎で生まれた娘と妻の一字をとって命名した「朋幸姫」、家族の名前を付けたのは唯一で、その犬が日本一の夢をかなえてくれたことに不思議な巡り合わせを感じる。



岩手日日掲載写真2014.4.25

天然記念物の血絶やさぬよう後代に伝えていきたい

一日の運動の後は明日の食事の準備がある。薪ストーブに火を入れ、魚と野菜とごはんを煮込む。「じい〜じのひみつきち」でラジオを聴きながらの作業、今日の犬の状態、明日はどうしようと一日の反省とともに次の展覧会に向けて夢を馳せる。なので家に入るのは夜9時過ぎになる。家族に理解はしてもらっても迷惑をかけ通しである。

全国優勝後、地元岩手日日新聞に写真入りで掲載され、一関市の広報「I-Style」の表紙も飾り、お祝いの電話や見学者もやってくる。これからは良犬の作出を目指しつつも、多くの人に北海道犬のよさを知ってもらい、天然記念物としての血を絶やさぬよう後代に伝えていくことを目標に犬たちと共に走り続ける。